新春に

新年おめでとうございます。

昨年は多くの皆様にお世話になり、当社も順調に成長する事ができました。

昨年度、第56期（9月決算）の売上は前年比3億円増の43億3700万円を達成する事ができました。社員の皆様、お取引先様に御礼申し上げます。この数字は皆様の力があっての数字です。

これで当社の売り上げは、41期2003年の25億6500万から15期連続の増収となります。3億を超える増収というのも初めての事です。この全てが増益と言うわけではありませんが、売り上げが増えた分、少しずつ収益も伸びております。

ちょうどこの15年というのは日本の人口が減り始めた時と一致しています。14年前、2005年に日本は人口減少局面に入ったと言われています。その年の出生数は106万人、死亡者数は108万人で、統計上初めて逆転したのです。総人口は1億2800万人です。

総人口を概観してみますと、2005年から2010年まで緩やかな減少が続き、2011年からは一直線で人口は下降します。そして昨年8月の数字で1億2644万人です。12年で156万人減ったという事です。156万人とは日本の都市人口第5位の福岡市位です。そして一昨年1年間で39万4千人が減っています。また最新の発表によれば2018年1月で過去最大の44万8千人の減少だそうです。この数字は長岡、上越を足したより少し少ない位です。

人口が減れば需要も減り、経済規模は小さくなります。しかも高齢人口は増え続けていきます。

そこで悠々自適でもいいのですが、問題は日本の国には借金があるので、その借金を少ない働き手で返さなければならない事にあります。もちろんこれをさらに先送りする事は可能ですが、人口が増える見込みがないのなら、さらに返済は難しい事になります。

しかしこれは日本政府の借金であり、日本国民の借金ではないから大丈夫だと言う人もいます。でも日本政府のオーナーは日本国民なので同じことです。まさか日本政府を倒産させるわけには行かないでしょう。

住宅ローンを返さないうちに定年を迎え、子供たちは東京で働いているサラリーマンのようなものです。子供の家計も入れたら赤字ではないというようなものです。その子供たちに仕送りをしてもらうわけにもいきません。今から考えるとあの「ゆとり返済」というやつが悪かったと悔やんでいます。最後には住まいを売って借金を清算しなければならないのです。

日本の国は国鉄を売り、電電公社を売り、専売公社を売り、郵便局も売りました。まだまだ足りません。それでも借金の利払いでやっとです。次は高速道路でしょうか。

今、先進国の中で日本だけが人口減少局面に入りました。人口が減るという事は経済規模が小さくなるという事です。それにもかかわらず、当社は売り上げを伸ばしています。赤字受注を増やしているわけではありません。また当社にしても働き手が減るという事は厳しいことです。仕事をしたくてもやる人がいないのではどうしょうもありません。

しかしそれは日本にいる限り誰でも同じ条件です。人手不足はどの業種、どの会社でも同じことなのです。

人余り、仕事の少ない時は皆多少の不満は我慢して働いています。そうしなければ生活ができないからです。今は違います。人が少なく仕事が多いのですから、皆良い仕事、良い職場を選ぶことができます。今大事なことは、お客様に選ばれるだけではなく、働く人に選ばれる会社にならなければならないという事です。その為には何をしたら良いのでしょうか。

冒頭に3億円分仕事が増えた話をしましたが、その分の人も増えたという事です。新人が入ってくるけれど、次々と辞めるという事では人は増えません。人が辞める理由はほとんどその現場の人間関係ではないでしょうか。労働条件や仕事内容などはわかって応募してくるわけです。しかしその現場がどんな雰囲気かまでは、行ってみないとわかりません。

私も過去に東京で何社かの仕事に応募したことがあります。やはりそれが一番気になります。毎日顔を合わせ、一緒に仕事をする人が一番大事です。

フルタイムであれば最低8時間は職場に居ます。1日24時間の3分の1です。8時間寝て、後は8時間しか残っていません。その8時間だって、通勤や、3回食べて、着替えをしたり、風呂に入ったり、あくびをし、新聞読んでテレビも見たら時間など残りません。ですから職場の8時間は大変大事な時間です。その時間が苦痛であったらどうでしょうか。早く定時が来て終わらないかと思っている時、時間はなかなか過ぎないものです。

皆さんはもう一度自分が新人であった時、初めてこの会社に来た時の事を思い出してください。何が良くて何がつらかったか。辞めようと思うときはどういった時か。新人に、部下に、後輩に優しく接する事。仕事のやり方、その教え方、何を言ったら、何もわからない人にわかってもらえるのか。

初めての現場で、自分の居場所もわからず、先輩の言う道具の名前も分からない時があったはずです。皆、そんな経験をしてきたのではないでしょうか。

会社の役割は現場で実際働く皆さんが、気持ちよく過ごせる環境を用意する事だと私は思います。

代表取締役社長
鈴木英介

